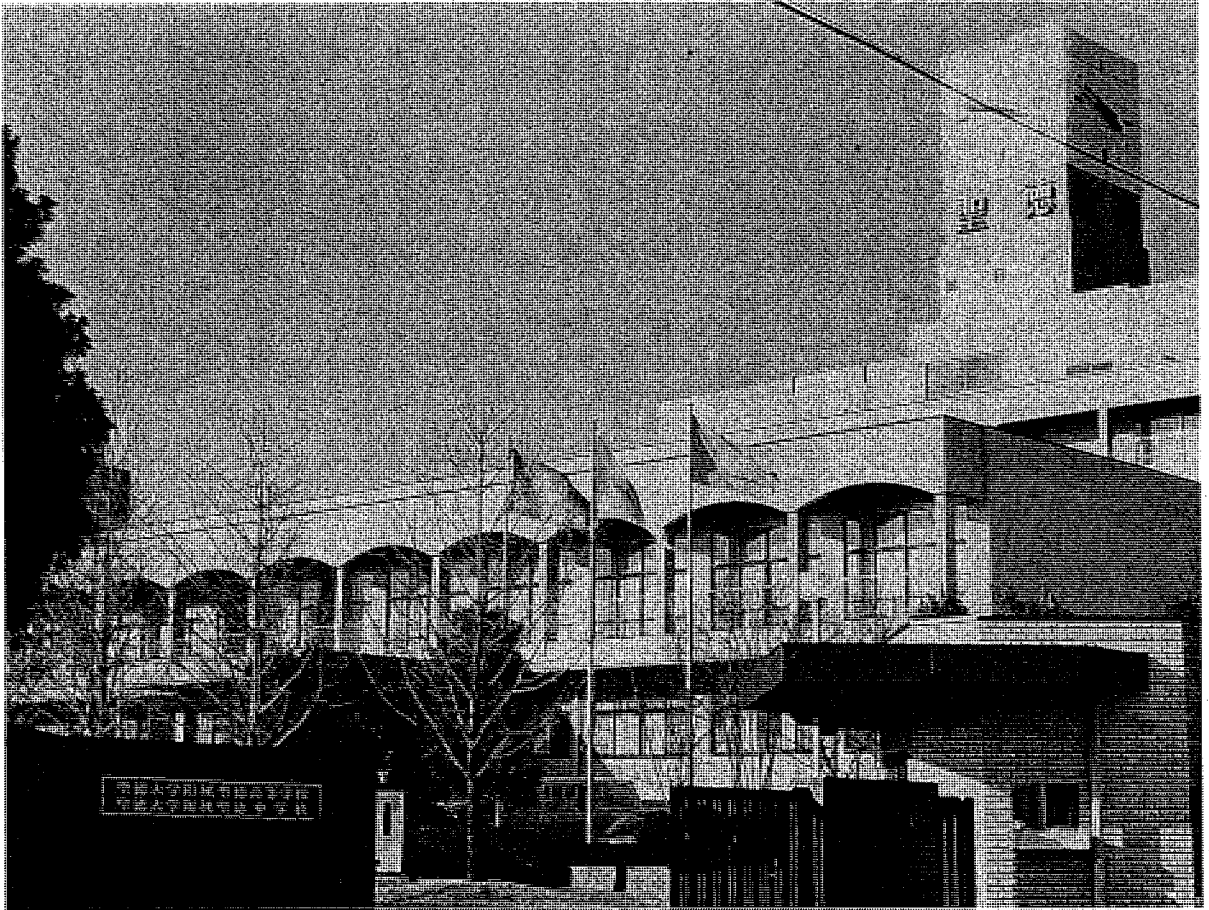


聖朋



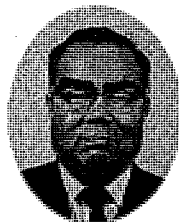
聖朋會報

第2号

聖徳大学附属聖徳高等学校・聖朋會

『聖朋』 第二号発刊

ごあいさつ



学園長

川並弘昭

同窓会報「聖朋」第二号の発行をお祝い申し上げます。卒業生の皆さんにはその後も相変わらずお元気に、各方面でご活躍のことと思います。

お蔭様で本校も開校以来、高校は九年目、中学は八年目を迎えました。振り返ってみますと、はるかに紫の筑波山を望む田園地帯の一角に、堂々たる聖徳の学び舎が開校しましたが、最初の入学者は、わずかに百二十数名でした。

しかし、その後卒業生の皆さんが本校の建学の精神をよく理解し実行して、創立時の苦勞を乗り越え、礼儀正しい生徒、あいさつをよくする生徒という評判を広め、毎日の学園生活に励まれた結果、今日の盛況を見るに至りました。現在では、高校は生徒数千七百三十五名、中学は八十八名という大世帯になりました。皆さんが在校中には、十年以内にこれほどの在校生になるとは想像できなかったと思います。これには先生方や保護者の方のご尽力は申すまでもありませんが、これまでの卒業生の皆さんが、りっぱな校風を築こう、社会に出ては先輩として恥かしく

ないようにしようという努力によるところが大きいと思います、感謝しています。

また、本学園では念願の聖徳大学が、昨年四月に開学しました。人文学部（二百名）が児童学科・日本文化学科・英米文化学科に分れています。聖徳短大は短期大学部と改編し、従来どおり定評のある教育を行っています。これで幼稚園から大学までの一貫教育のできる学園となりました。これから先生方と協力して、二十一世紀を迎える新時代にふさわしく広い国際性と豊かな人間性を兼ね備え、自分の実力を生かして、活躍できる人材の育成に力を尽したいと考えています。

本校の卒業生の皆さんには一層のご協力をお願い申し上げます。皆さんのご活躍とご多幸を心からお祈り申し上げて、ごあいさついたします。

母校への思い



聖朋会会長

櫻井 寿美余

暖かい春を早く告げる露のとうの芽生がちらほらと話題に上るこの頃です。皆様いかがお過ごしでしょうか。職場に、学校に、家庭に、母校で学んだ、「和」を思い、感じながら、御活躍のことと存じます。

私達一期の頃は、制服が目立ち、行きかう人々が必ず振り返る程でした。

先生方も、地域の方々との交流をととても大切に思われていたようです。私事ですが、通学の途中、自転車パンクしてしまい押して歩いていると、農家の方が「預かっておいてあげる。」と言つて下さり、代りの自転車まで貸して下さい

いました。その時、母校に対する好感を持って生徒を見ていてくれたる事を強く感じると共に、先生方の御努力をとてもありがたく感じました。

今では後輩の人数も多く、通学時の態度等で目立っているようです。先輩と後輩が心を一つにして、「さすが聖徳の学生」と言われるように、すべての面で学んで行けたらと思います。皆様はいかがお思いになりますか。

二年後には、聖徳高校十周年記念として先生方と、イベントを考えております。皆様からのアイデアを、お待ちしております。

回想の一齣

名誉校長

蓮沼節哉



卒業生の皆さんお元気ですか。お蔭様で私も息災で暮らしています。皆さんの過ぎし日の制服姿と同時

に、創立当時のことが次々と重なって蘇ります。その中の一つを記します。

一期生が入学した昭和五十八年四月には、まだ体育館が建設中であつて、取手市民会館で入学式をあげ、午後には、視聴覚教室で親子一緒に研修会がありました。その時、私は多分次のようなことを話したと思います。

「あなたがたは聖徳高の歴史の最初のページを書くことになる。どうか、自分の言動に誇りと自覚を持ってほしい。高村光太郎氏の『道程』という詩の最初の二行は、私の前に道はない私の後ろに道はできる

〔註〕原作は「僕」となっている。

で始まる。この志を在学中忘れな



「聖朋」第二号によせて

校長

篠原 寛

本校同窓会の役員の方々の御尽力により、「聖朋」第二号が発行されることとなり、誠に喜ばしいことと思っております。

月日の経つのは早いもので、今年、中学校第五回、高等学校第六回の卒業生の巣立ちの年となりました。私は今年まで、校務上わず

は建学の精神を守り、譬えて言うならば、藤代の田圃の中の細道を土を踏みしめて歩いてこられました。その道に残した足跡を慕って、次々と歩く人が多くなり、道幅も広がり舗装した道になりました。これが母校の現在の姿であると思

います。これもはじめに歩いて踏み固めた皆さんの努力と苦勞が基礎になっていきます。卒業生の皆さん、これからも聖徳の出身者らしく明るく美しく活躍してください。ご都合がつかないら、どうぞ、学校へもお出かけください。先生方もお待ちしております。

○西東別れ住むともいつの日も心に宿せ聖徳の園

音楽科の定期演奏会で、音楽科全員でラストにアンコール曲として歌った、バツハ作曲の「主よ、人の望みの喜びよ」が素晴らしい合唱として、今でも印象深く私の心に残っております。また、大学で会議が開かれる機会が多いので、松戸へよく出掛けますが、その度に、大抵、本校の卒業生の皆さんが先に気がついて進んで挨拶をしてくれ

心暖まる思いで、その度に嬉しく感じております。平成三年度大学短期大学の入学式にも出席させていただきました。式の初めの総

春の日を迎えて



副校長

小貫 昭二

希望の春が訪れて参りました。私は野山が好きで、春ともなれば筑波に連なる真壁から八郷にかけての山並みに足を踏み入れることしばしばであります。

潺湲と流れる湧き水に耳を傾けながらの、えいざんすみれ（薄暗い杉林のごく限られた区画に咲いている）の清らかな白と一年ぶりの再会や、鶯の澄んだ音色がそのまま凝縮したかと思われる可憐な金蘭とのたまさかの出会いなど、生きた喜びをしみじみ感じさせられます。又、春の気が一杯に吸い込まれるような春の躍動を見る思いが致します。

た。どうぞ本校出身者としての自信と矜持を胸に、これからも各分野で大いに頑張ってください。そして、皆さんがそれぞれ実力を発揮されて、「社会の優等生」として活躍されるように心から期待し

念じております。「聖朋」第二号の発行にあたり、今の私の心情を書かせていただきました。膳まで賑わし随分好評をうけていますが、わらびの方はあく抜きが伸々うまくゆかず、折角の山の幸を無駄にしたり、わらびはぜんまいより美味くないときめつけていたところがありません。ところがさる日、「わらびのあく抜きについて」の新聞記事に教えられてから誠に上手にあく抜きができるようになり、ぜんまいとは又別な春の味覚に舌鼓をうっております。興味・関心や情報の活用などが人生の楽しさを大きく増幅させる原動力になることは事実のようであります。

聖徳大学附属聖徳高等学校 聖徳大学附属聖徳中学校

字体が変わりました！

ロゴの特徴は、左がゴシックを生かした角であり、それに対して右がまるくなっているところにあります。これは聖徳学園の規律と女性の柔かさを表現しています。

卒業生による近況短信

(旧姓 桜井)

長井千春

(昭和六十一年卒)

(旧姓 川田)

大森泰子

(昭和六十一年卒)

定行玲子

(昭和六十二年卒)

佐藤美奈

(昭和六十三年卒)



縁があり昨年の十月二十一日に結婚し、姓も「桜井」から「長井」に変わり、「長井さん」と呼ばれるのにもやっと慣れてきました。嫁ぎ先は「伊勢屋」というおだんこ屋さんです。現在、私は幼稚園に勤めている為、家業の手伝いは休みの時しかできません。三月いっぱい、主婦、幼稚園、家業と大変ですが、四月から毎日店先にていますので近くまでいらした時は寄ってください。



高校生の時、チケット取る為に並びに行った。二晩並んで二列目のド真ん中で親た時のあの感動は忘れられない。涙ものである。そんなパワーは今の私には無いけれど、まだそのアーティストは大好きで去年のツアーも長女を連れて親に行った。妊娠八ヶ月の事である。さすがに「きゃー」とは叫ばなかったけれど、腫をうるうるさせて終始舞台に見入っていた。よおし！来年のツアーも親に行くぞ！と心に決めた。…充分パワーあつたりして。

みなさん、お元気ですか？私は今、東京の九段にある会社で経理関係の仕事をしています。仕事は忙しすぎるといふことはないのですがやはり、常に責任を持って仕事をしなければ自分の失敗でなく、会社の失敗になってしまうので、学生の時のような甘えはきかないなあと思う思います。しかし逆に学生の時に得られなかったこともあるので、これから会社という組織の中でもっとたくさんのことを学び、私の人生のステップにしたいと思っています。



気がつけば、学生生活も、あと一年余り。私を知ってらっしゃる皆さんは、佐藤は今頃、跡見で遊び惚けているに違いない、とお思いでしょうが、そんなことはありません。私の大学は、こう見えても勉強に関しては結構厳しく、二年の頃は、かなり苦労しました。今は、もちろん勉強と、一大イベントである卒業旅行、オーストラリアの旅を夢見ながら、バイトに日夜励んでいます。案外まじめで質素な大学生活、送っています。



(左より2人目)

井上裕美

(昭和六十三年卒)

山中美和

(平成元年卒)

桐田博美

(平成元年卒)

坂野良子

(平成二年卒)

鶴丸典子

(平成二年卒)

軽自動車のミニカに乗って、現在の私は石岡から佐貫、牛久、森の里、並木、とヴァイオリンの出張レッスンに追われております。副科のピアノも役にたちまして四人ほど教えております。週一度の学園都市オーケストラの練習が音楽への夢をふくらませてくれます。年二度の定期演奏会に頑張っております。仕事に追われておりますと、自分の練習がなかなか出来なく、今後の課題は、自分のレッスンに月一回は必ず行こうです。

短大生活も残り少なくなり、今は卒業製作に取り組んでいる毎日です。聖徳高校を卒業してもう二年近くになりますが、去年の11月には聖徳中学校の方で、二週間の教育実習をさせて頂きました。たった二週間ではありましたが、自分が教師という立場に立ち、今まで学ぶことができなかった多くのことを学ぶことができました。先生方には色々とお指導頂き、良い経験をする事ができました。この経験を今後に生かしたいと思っております。



(左端)



(最上右)

早いもので、私が聖徳高校を卒業してから二年が過ぎようとしています。絵を書きたい」という一心で入学した、デザイン専門学校。この二年間で、数多くの専門知識を得ることができ、バイトとして、世界文化社発行のカット集に載せていただいたりと、たいへん思い出深い年となりました。成人式も無事に終わり、いよいよ四月からは社会人です。自分の行動に責任のもてる大人になれたら、と思っております。

入学して早や一年、学生生活も毎日楽しく過ごしています。校外学習や学園祭などいろいろな行事もあり、充実した日々を送っています。九月には就職にも関係している前期試験が行なわれ、「大変だった」の一言しかありません。でも、そんな大変なことばかりではなく、いろんな人と出会える楽しみもあります。これから就職活動などで忙しいですが、今しか出来ないことを悔いの残らないように頑張っていきたいと考えています。

私は只今、聖徳大学の一年生で、日本文化、主に日本文学を専攻しています。今年から設立された学部で私は第一期生を飾ることになり、中学、大学と二回も栄光の第一期生バッジをつけることになりました。一期生というものは、辛く、苦しいものではありませんが、学校を開拓するという責任と義務があります。私たちはそれぞれのパーソナリティを生かし、その期待を背負って頑張っていきたいと思えます。



我が母校！創立十周年間近！

(これまでの歩み)

○昭和五十八年四月
聖徳短期大学附属聖徳高等学校
開校（入学式）

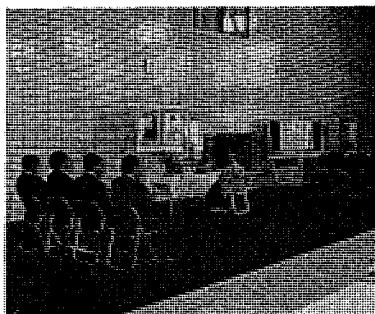


取手市民会館にて

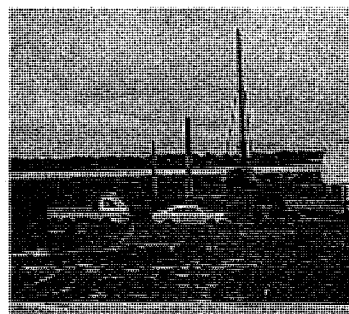
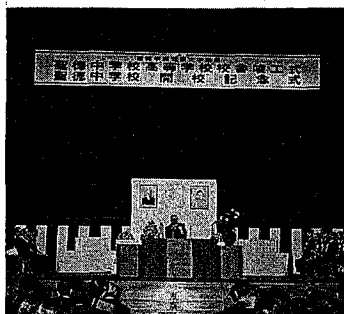


上棟式

○昭和五十九年四月
同中学校開校（入学式）



○昭和五十九年五月
プール開き



○昭和六十三年三月
生徒寮「和弘寮」を落成



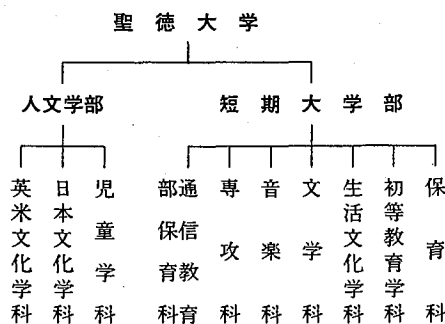
○昭和六十三年四月
英語コース、体育コースは、それぞれ英語科、体育科に昇格。
普通科、音楽科、英語科、体育科の四科になる。

○平成二年四月
聖徳大学人文学部開校

○平成四年
創立十周年を迎える。

聖徳大学

組織図



役員紹介

会長	櫻井 寿美余
副会長	天田 由紀子
監査	斎藤 華子
書記	海老原 里佳
會計	村田 美穂
	山中 美和
	宮田 理加

会員数

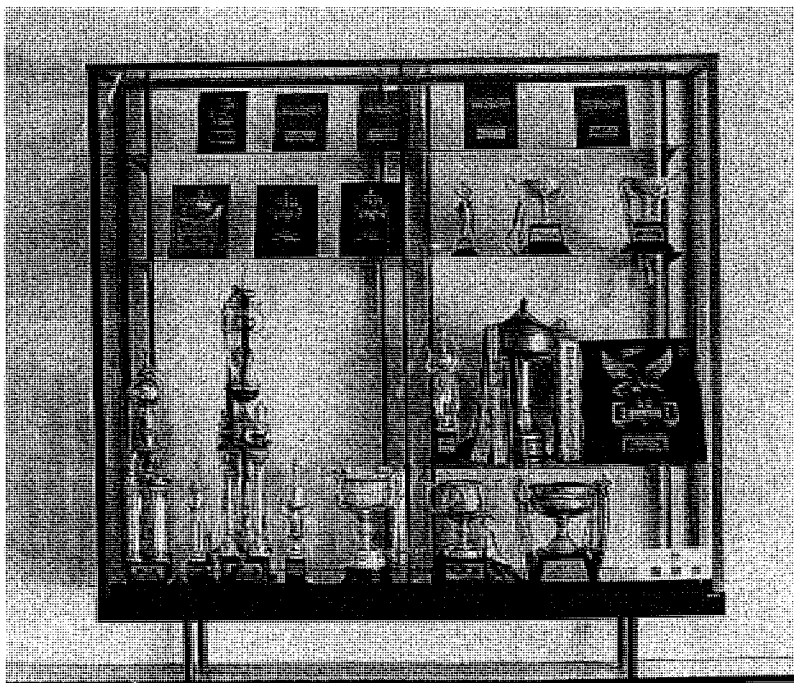
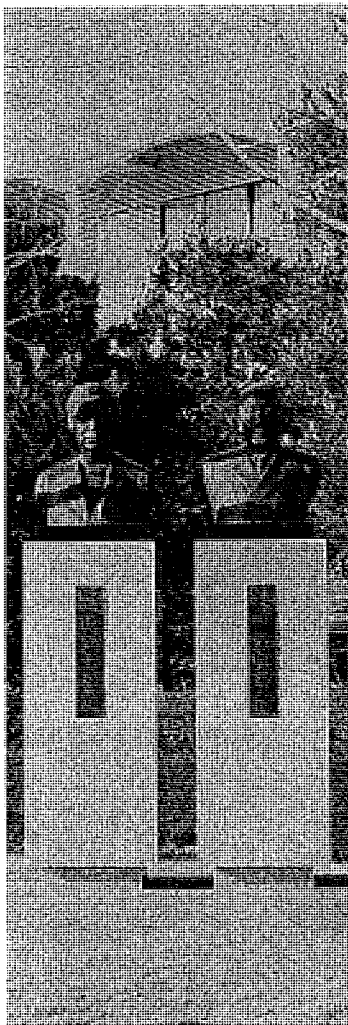
1期 (S61年卒)	120名	4期 (H元年卒)	354名
2期 (S62年卒)	62名	5期 (H2年卒)	398名
3期 (S63年卒)	157名	6期 (H3年卒)	582名
		計	1,673名

聖朋会近況

報告

四月二十一日 幹事会
五月 幹事会
八月二十五日 総会
プラザヘイアンにて
※幹事会・総会の出席を心よりお待ちしております。

下に掲載されている写真は、聖朋会より寄贈したものです。
聖徳高校、中学の特別活動も毎年さかんになり、今以上の活動を願ひ、このケースに多くのトロフィーが飾られることを、聖朋会一同楽しみにしております。



(この他、ワープロ2台寄贈)

編集後記

聖朋会会員も年々増え、役員一同喜んでおります。第二号の会報も出来、みなさまにお届けすることが出来ました。
役員一同、頑張っておりますので、何卒御寛容の程お願い申し上げます。

発行
茨城県北相馬郡藤代町
山王中田一〇〇〇
聖徳大学附属
聖徳高等学校聖朋会
印刷
すざき印刷
電話〇二九八―四一―〇六六九